

4/6 玉藻

## 学術会議

# 介入の「懸念強まる」

### 政府法改悪狙い「選考諮問委」案

政府が今国会で日本学術会議の独立性を損なう法改悪を狙っている問題で、内閣府は4月、法案の検討状況を

は、科学とそれを取り巻く社会経済情勢、産業や国民生活、政策などに経験と見識のある者の中から、会長が

「科学に関する知識を有する関係機関と協議」の上、任命するが会員の選考に關与する「選考諮問委員会」の構成を実体

的であります。

「「学術会議を監視するための法改正だ」といった批判が相次ぎました。学術会議の梶田隆章会長は、「日本の学術の終わりの始まりにならかねない」という懸念が強くなつた」と危惧を表明。幹事会のメンバーたるは法案の検討過程について、当事者たるの（府からの）介入という懸念を払拭すべきであります。

このまま学術会議に法案の条文さえ示されず、法改定の方向に進めば、「政府と学術会議との決定的な決裂」という最も不幸な結果になる」と述べました。